

## 畦畔板によるイネミズゾウムシの防除法

## 目的と特徴

- ・イネミズゾウムシの越冬後の成虫は、おもに移植直後の水田に畦畔から歩いて侵入します。
- ・この技術は有機栽培など、農薬を用いた化学的防除ができない場合に、田面に畦畔板を用いた「壁」を作って成虫の侵入からイネを守るものです。
- ・畦畔板（波板）と支柱（篠竹など）があれば実施することができます。



## 畦畔板で、田んぼをぐるり

田んぼを畦畔板でぐるりと囲んで、歩いて水田に入ろうとするイネミズゾウムシの侵入を防ぎます。



作業員 2 人で設置が可能です。→



←田植機に取り付けて、畦畔板を設置する専用機械もあります。



## 成果

- ・田植え後、速やかに水田の全周に畦畔板を設置すると、イネミズゾウムシ成虫の侵入を抑えることができます。
- ・設置にかかるコストは、100m×30m(30a)のほ場1枚で労働費を含めて約2万円でした。

- イネミズゾウムシの成虫が水田内に侵入してからでは効果がありません。  
**田植後は速やかに畦畔板を設置し、成虫を侵入させないようにしてください。**  
 畦畔板を設置したら、倒れないよう支柱で固定してください。

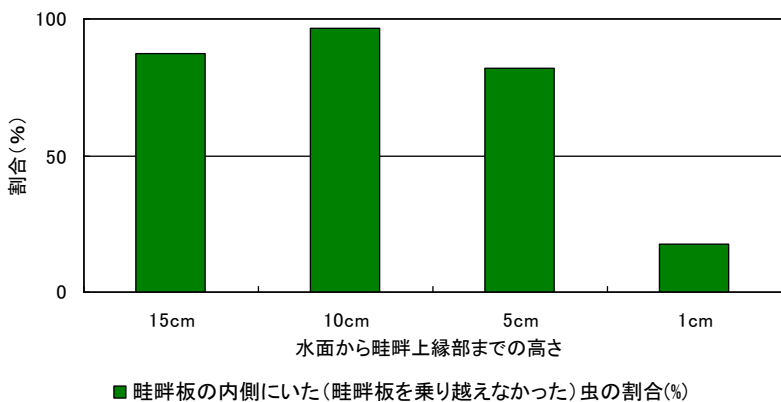


図1 水面から畦畔板上縁部までの高さがイネミズゾウムシの移動に及ぼす影響  
 (畦畔板の内側に成虫を放虫し、1日後の調査で成虫がいた場所の割合)

- 図1のように、試験の結果からは、水面からの高さが5cmあればイネミズゾウムシの侵入を抑制できることがわかりましたが、田面の水位は変動することがありますので、**設置時には畦畔板の上端を水面から高さ10cm程度出しておいてください。**

- 田植機に装着して、畦畔板の設置ができる専用機械もあります。(図2) 100m×30mの30aほ場に設置した場合の作業時間と費用の試算結果は右の表1のとおりです。



表1 畦畔板設置に要する時間および費用  
 (100m×30mのほ場あたり。単位:時間、円)

項目		専用機械	手作業
時間	作業時間	0.6	1.0
	労働費	891	1,620
	資材費	18,200	18,200
費用	燃料費	149	0
	専用機械の減価償却費	857	0
	<b>費用計</b>	<b>20,097</b>	<b>19,820</b>

注:専用機械による設置費用は、以下の条件で試算した。  
 ・作業員2人で設置する。(手作業の場合も作業員2人で設置)  
 ・1台の機械で設置する面積は年間360a。  
 ・労賃の単価は832円/時間。  
 ・田植機本体の減価償却費は含まない。

図2 畦畔シート埋設機FS ((株)コンマ製作所製)

### 対象作物、普及対象

- ・ 水稻、全国

### 対象農家

- ・ 有機栽培米生産者

### 必要な道具

- ・ 畦畔板(波板)、支柱(篠竹を利用するとよいでしょう)

### 関連HP(成果情報)

[http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/kenkyuseika/kenkyu\\_seika\\_H23.html](http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/kenkyuseika/kenkyu_seika_H23.html)

### その他

- ・ 田面全体をすき間なく囲むことが必要ですが、水口と水尻部分は、必要な時に一部分だけ波板を開けられるようにしておきましょう。(前ページの写真は一部を開けています)